

令和 2 年度

事業所名： グループホーム みんなのいえ (ユニット②)

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100675		
法人名	株式会社 三協メディケア		
事業所名	グループホーム みんなのいえ (ユニット②)		
所在地	〒020-0851 岩手県盛岡市向中野2丁目55-6		
自己評価作成日	令和3年1月18日	評価結果市町村受理日	令和3年11月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の皆様のご理解とご協力をいただきながら18年目を迎えました。コロナ禍ではありますが、地域の一人としてできることを考え、介護に役立つ豆知識を掲載した広報「みんなのいえ通信」を近隣住民へ配布し、情報を発信しております。広報を通じて、事業所の取り組みや利用者様の様子を地域の皆様に知っていただけるよう努めております。利用者様が住みなれた場所で安心して最期を迎えられるよう終末期の対応に力を入れております。ご本人・ご家族の思いに寄り添い、主治医・訪問看護ステーションなど関係機関と連携し情報を共有しながら人生の最期を穏やかに安心して過ごしていただけるよう取り組んでおります。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、高等学校や小中学校、幼稚園、病院、公園が近くにある生活環境に恵まれた場所に立地している。開設以来、町内会に加入し、地域と日常的に交流している。現在コロナ禍で、行事は中止され交流は出来ないが、「みんなのいえ通信」を近隣の世帯に配布し、認知症の理解と啓発に寄与している。家族との面会も制限されている中、夏にはウッドデッキで家族と会ったり、Webを介した面談を考えてタブレットを購入する等、家族とのつながりが持てるよう工夫されている。利用者が、住みなれた場所で安心して最期を迎えられるよう、訪問診療医や訪問看護ステーションと連携し、終末期の対応に取り組んでいる。職員は、アメンバー経営に取り組み、収入支出を学ぶことで経費の節減に貢献しながら、さらに介護技術の向上に取り組んでいる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和3年2月3日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業所名 : グループホーム みんなのいえ (ユニット②)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「共に和み、共に生きる」を運営理念に掲げ、安心と尊厳のある生活を営めるよう利用者様に対し礼節をもって支援するよう努めている。利用者様の満足、「笑顔」を引き出せるよう明るい職場を目指している。	会社の運営理念を基に、事業所独自の理念を職員で検討し「顧客満足度を高め笑顔を引き出す」を行動目標に、ケアに当たっている。	パート職員とも理念を共有し、全職員が一体となって、これからも「笑顔」を引き出すケアの提供に努められることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナウイルス発生に伴い、交流の機会を持てなかった。毎月発行している「みんなのいえ通信」を地域に配布し、事業所の活動や利用者様理解を得られるような情報を発信している。	町内会に加入し、行事等に参加していたが、コロナ禍で、地域との交流が出来ないでいる。毎月発行している「みんなのいえ通信」を地域に配布し、事業所の活動や認知症の理解と啓発に努めている。通信に掲載している認知症豆知識は、職員が交替で書いている。隣人(元利用者の家族)が、遊びに来たり、事業所の草取りや野菜の差し入れ等をしていただいている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月発行している「みんなのいえ通信」に介護豆知識を掲載し、情報を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は6回中4回が書面での開催となり、話し合いの機会が少なく、運営に活かすことができなかった。	運営推進会議は、6回のうち4回が書面開催となっている。前回の課題であった民生委員への委員就任を、町内会長を通じて要請していたが、コロナ禍で実現に至っておらず、引き続き検討課題としている。事故やひやりはつとを行政に報告し、指導を得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括支援センターより運営推進会議に参加していただきおりホームの実情や取り組みを報告・相談し、助言をいただいている。	運営推進会議に、地域包括支援センター職員が出席しており、活動報告に意見や指導を得ている。市担当課に必要な書類を郵送し、市からはコロナ禍の情報や研修会の連絡などをメールで頂いている。直接窓口に出向くこともあり、連携は図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わない指針を掲示し、職員間で確認しあっている。身体拘束に関する研修を通して、身体拘束による弊害を理解し、日々のケアを行っている。玄関の施錠は行わず外出を希望する方には付き添い対応している。特にスピーチロックに気をつけ、お互い注意しあい意識して取り組んでいる。	身体拘束適正化委員会を3ヵ月毎に開催し、記録を整備している。身体拘束を行わない指針を策定し、職員会議で読み合わせをしている。現在、物理的な身体拘束はない。スピーチロックについては、危険を回避するために咄嗟に出ることが多く、職員は研修を重ね、意識しながらケアに当たっている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム みんなのいえ (ユニット②)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待に関する資料を配布し勉強している。介護を負担に感じないよう、チームケアを日頃から確認している。ストレスを溜め込まないように職員間でコミュニケーションを取るよう心がけ、日頃から虐待について話題に出すようにし、お互いに注意しあう体制を取り、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する資料を配布し勉強している。成年後見制度を利用されている利用者様の後見人と必要に応じて話し合い支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重要事項説明書などで説明し、疑問や不安を伺い、納得していただけるよう再度説明し理解をいただくようにしている。退所の際は、退所に至る経緯を説明し、双方合意の上で退所に至った旨を文章にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の際は、家族様とコミュニケーションをとるよう心がけ、意見や要望を聞きだすようにしている。	家族から、冬場の面会について、(コロナの前から)インフルエンザで面会制限しなくていいですかとか、加湿器が少ないなどの要望があり、その都度対応している。クーラー設置の要望にも応えている。現在、面会は窓越しで行っており、Webを介した面談を検討しタブレットを購入している。これまで、家族が出席しやすいことを考慮し、行事に併せて運営推進会議を開催してきたが、コロナ禍のため書面開催となり、家族から直接意見を聴く機会が少なくなっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員と普段からコミュニケーションを取るよう心がけている。法人内のアンケートや個人面談を行い意見や要望を上司に伝えることができ、運営に活かされている。	管理者は、普段から職員とのコミュニケーションをとるよう心掛けている。法人は、職員アンケートで、パワハラやセクハラの実態を調査し、研修や必要時に指導や助言を行なっている。勤務のシフトについて、法人は夜勤を8時間と設定としたが、職員の要望に応じて12時間に変更している。	

事業所名 : グループホーム みんなのいえ (ユニット②)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を行い、職員個々の取り組みを評価している。運営法人は有期型研修制度を取り入れ、非正規職員を正規職員へ登用する仕組みを行っている。資格取得を推奨し、資格取得時は報奨金、資格手当が支給される。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課を半年毎に行い、職員の現状把握に努めている。職員の経験等を考慮し、研修への参加、資格の取得をバックアップしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他事業所と合同研修会や交換研修などで交流の機会があり、情報交換し、自事業所のサービスに活かしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には必ずご本人にお会いし、ご本人やご家族の思いや要望などを聞き、安心して利用できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時より、入所への経緯、不安や要望など時間をかけてよく聞き、話しやすい雰囲気、良い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	時間をかけてよく聞き取りを行い、ご本人とご家族が必要としているサービスにお応えできるよう他のサービスも念頭に置きながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念にも掲げているように共に支えあって日々過ごしております。特に男性職員は利用者様に教えていただくことや助けていただくことが沢山あります。「ありがとう」の感謝の言葉を伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様のありのままの状況をその都度ご家族へ伝え、共に喜び、悩みながら理解とご協力をいただき、利用者様を支えていく関係が作られていると感じています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は外出・面会を禁止していますが、ご家族の協力をいただき自宅や馴染みの美容室へ外出したり、ご家族や親戚の方、友人が気軽に訪問しやすい雰囲気作りを心がけている。	以前は、家族と外出したり、知人が訪ねて来たりしていたが、現在、コロナ禍で、外出、面会が出来ないでいる。その中で、感染症対策を行った上で、家族と一緒に馴染みの美容室に行くことができた利用者もいる。訪問理容師が来所し利用者全員の整髪をするなど、関係者と連携、工夫しながら、馴染みの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者様同士で過ごせるよう配慮したり、利用者様同士が関わりを持てるように職員が間を取り持ち支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も受け入れ先やご家族と連絡を取り、必要に応じて相談を受けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりの中の会話から本人の思いや意向をさりげなく聞きだし、職員間で情報を共有しケアに活かしている。	日常のさり気ない会話の中から、思いや意向を把握し、得た情報を申し送りノートに記載し共有している。感染症予防のため職員がマスクを着用して介護に当たっているが、難聴の利用者から口の動きが見えないと言われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様、ご家族との会話の中や担当ケアマネジャー等から情報を収集し把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の様子や状態を観察し、変化や気づきを申し送りノートを活用し情報共有、現状の把握に努めている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム みんなのいえ (ユニット②)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族や主治医・訪問看護などから得た情報や助言、把握した情報を職員間で話し合い、概ね6ヶ月毎に見直しを行っている。ご本人、ご家族の思いや意向が反映されるようプランを作成している。	利用者担当職員の情報、医師の意見や看護師の助言を聞き、更には家族の希望を取り入れながら、職員会議後のカンファレンスで話し合いを行い、計画を決定している。家族に計画を説明し同意を得ている。計画は、3～6か月ごとにモニタリングのうえで見直し、更新している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録で生活の様子、食事量・水分摂取量、排泄等記録している。また、申し送りノートやどきっとノート、業務日誌等でも情報の共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族のニーズにこたえられるよう柔軟な対応を心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会、近隣住民、警察・消防などへ「みんなのいえ通信」を配布、理解を得られるよう情報を提供し、安全・安心して生活していけるよう働きかけを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族と相談し主治医を決めている。主治医と情報を共有し、専門の医療機関への紹介や入院等、必要な医療が受けられるよう支援している。受診後は家族へ連絡し利用者様の状態を共有している。	利用者と家族の希望で、かかりつけ医を決めている。訪問診療医は2週に1回の診療で、緊急時は往診で対応している。看取り時には夜間も往診して頂いている。診療後は、結果を家族へ連絡している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制をとっており、毎週訪問時に情報提供、相談し助言をもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、ご家族、医療関係者と情報交換や退院後の相談をこまめに行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に看取りの指針を説明し、現時点でのご家族の意向を伺っている。また、状態の変化に応じて話し合い、意向に沿えるよう関係者と協力し、看取り支援に取り組んでいる。	看取りの指針を策定している。入居時に利用者及び家族に重度化や終末期の対応について説明し、看取りの意向も伺っている。重度化の状況に応じ段階毎に、医師や看護師から家族に説明するとともに、職員を含めた話し合いを行い、意向に沿えるよう支援している。職員は、訪問看護師から重度化や終末期の対応についてパンフレット等で学んでいる。看取り時には、職員が協力しケアに当たっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルで急変時や事故発生時の対応について確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練では夜間を想定した訓練を行っている。実施の際は地域住民への参加の呼びかけを行っている。要援護者登録をしており、災害の際は町内の方が安否確認に来てくださる体制ができている。	年2回、避難訓練を実施している。その一つの夜間想定訓練では、事業所内や居室の電気を消し、カーテンを閉め、夜勤1人体制の設定で実施したところ、利用者の確認漏れが課題として明らかになったとしている。災害時には、2人の隣人が見守り協力員として駆け付けてくれる体制が出来ている。隣人は、お昼時間に顔出しをしてくれている。	災害対策として、長いおつきあいの隣人から協力が得られており、地域との交流の深さを感じられる。また、夜間想定訓練については、実施しての課題等も検討されているが、今後、実際に暗い時間帯で訓練を行い、更に万全を期されることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として敬意を払い、羞恥心に配慮した声かけや対応を心がけている。	利用者へは、名字や名前にさん付けで声掛けしている。職員は、言葉遣いは丁寧語で対応するよう統一している。特に、入浴や排泄介助時には、プライバシーや羞恥心に配慮した対応を心がけている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム みんなのいえ (ユニット②)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、ご本人が選択できるような声かけを意識し支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの一日の大まかな流れはあるものの、利用者様のペースや心身の状況に合わせた対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に洋服を選んでいただいたり、愛用の化粧品を使い、おしゃれを楽しめるよう支援している。女性利用者様には希望に応じてマニキュアやパックを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の要望を取り入れながら一緒に献立を考え、準備や後片付けを行っている。食事の際は会話を楽しめるよう職員も一緒に食卓を囲んでいる。	献立は職員が1週間分を交替で作成しており、水曜日と金曜日はデイサービスの栄養士作成の献立を参考にしている。誕生会は利用者の希望に沿ったお赤飯やケーキ等を用意している。大晦日にはお寿司とお蕎麦とし、他にも季節や行事に合わせた食事を楽しんでいる。食器洗い、下膳(食器1個でも)、茶碗拭き等、食事作り出来ることで参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	週2回栄養士の立てた献立を取り入れ、食事のバランスやカロリーを目安にしている。個々の介護記録に食事量や水分摂取量を記録し把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声かけ、見守り、必要に応じて介助を行っている。月に1回、歯科往診、口腔ケア指導を受けアドバイスをいただいている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートで個々の排泄パターンを把握している。また利用者様の表情や行動から排泄のサインを観察し、トイレでの排泄支援を行っている。	利用者が立ち上がったたり、うろろう探すそぶりを見せたり、「帰るがなあ」と言ったりの排泄のサインを察知し、トイレに誘導している。誘導時は「手伝って貰えませんか」とか周囲に配慮した声掛けをしている。排泄後は清拭し清潔を保持している。同性介助にも配慮している。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム みんなのいえ (ユニット②)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便通に良い食品を取り入れた食事の提供、毎日のラジオ体操やホール歩行で体を動かす機会をつくり、便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は職員の体制が整っている時間帯で対応している。週2回をめぐりに入浴しているが希望に応じて対応している。入浴日以外は、毎日足浴と陰部清拭を行い清潔の保持に努めている。希望者には同性介護で羞恥心に配慮している。	週2回の入浴とし、入浴しない日は、足浴と陰部清拭を行なっている。陰部清拭は、起床時や排泄時にも実施し、清潔の保持に努めている。足は、マッサージクリームで皮膚の保湿に努めている。異性介助を嫌う利用者には、同性介助としている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日の生活リズムを整え夜間安眠できるように支援している。ホーム各所にソファが配置しておりお気に入りの場所で過ごせるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の情報説明書を職員は閲覧し、把握に努めている。個々の状態に応じて服薬支援方法を変えて対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様一人ひとりに活躍の場を作り、力を発揮できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の状態や希望に応じて散歩やドライブを取り入れている。日常的にウッドデッキやホーム駐車場を外気浴を楽しんでいる。ご家族の協力で自宅へ外出したり馴染みの美容室へ出かける方もいます。	天気のよい日は、散歩したり、ウッドデッキや駐車場に出たり、ベンチに腰掛けて花壇を見たりして日光浴や外気浴を楽しんでいる。散歩では、フェンスの薔薇を観たり、子どもを連れて若いお母さんとすれ違えば「可愛いね」と声をかけたり、近所の方には「こんにちは」と挨拶している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持ったり使ったりすることの大切さは理解しているが、トラブル防止のため、原則お金の持ち込みはお断りしている。希望される方については、ご家族と相談し小額の現金を持っている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム みんなのいえ (ユニット②)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話の際に利用者様によって通話していただいたり、年賀状を利用者様に書いていただき家族様へ送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾りや行事を取り入れ、季節を感じていただけるようにしている。照明は暖色の電球を使用し、夜に向け徐々に暗くしていき就寝の時間を感じていただけるよう工夫している。	ホームの中心にある広いホールは、居間兼食堂となっており、小上がりも備えている。食卓・椅子、ソファ、テレビが置かれ、壁面には、季節を感じさせる装飾もある。ホールは、パネルヒーターと加湿器で室温を整え、感染症対策で、朝昼夕と換気を徹底している。利用者は、小上がりに腰掛けながらソファの利用者と話しているなど、穏やかな雰囲気がある。消灯は21時としており、利用者は19時ごろには部屋に戻っている。まもなく鄙飾りの準備を始める予定である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには各所にソファが配置してあり、お気に入りの場所で過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた家具など使い慣れた物や家族の写真に囲まれ安心して過ごしていただけるようにしている。	各居室に、ベッド、洗面台、クローゼット、パネルヒーター、エアコンが設置されている。自宅から、仏壇や位牌、家族写真、テレビ、椅子等を持参されており、自分らしい部屋となっている。仏壇等を持ち込まれた方は、毎朝水をお供えしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーとなっており、利用者様の状況にあわせて介護用ベットや車椅子、ポータブルトイレなどを使用し安全に過ごせるように支援している。居室内の家具はご本人、ご家族と相談して配置している。		